新年のごあいさつ　新たな価値創造による「新化」へ

あけましておめでとうございます。市民のみなさまにおかれましては、清々しい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの５類感染症への移行もあり、社会・経済活動が徐々に戻りつつある１年であったと感じています。

こうした中、本市では嬉しいニュースがありました。昨年２月、官民連携手法として全国初となるLABVプロジェクトが「内閣府地方創生推進事務局長賞」を受賞し、地方自治体における公有地の有効活用の先駆的な取組として高い評価を受けました。今後は、全国で横展開できるような充実した内容にしていきたいと考えています。

また、昨年10月には山口東京理科大学が、厚狭高校南校舎を活用した新学部・新キャンパス構想を発表しました。地域と大学の連携が進むことにより、教育環境の充実に加えて、厚狭駅周辺のにぎわい創出の起爆剤となることを期待しています。

さらに、ＤＸの推進に向けて支援をいただいている日本情報通信㈱と自治体向け生成AI利用対話型アプリ「NICMA（ニックマ）」を開発し、昨年11月からは全庁で職員が活用できる環境を整え、業務の効率化にも取り組んでいます。

一方で、６月末から７月にかけての豪雨災害により、多くの方や資産に被害が及ぶこととなりました。中でも、JR美祢線については、復旧が未だ見通せない状況ですが、県とも協調しながら、厚狭川の河川改修を中心にハードとソフト両面からの対策を充実させることにより、安心安全な地域社会の形成を進めてまいります。

本市では、第二次総合計画中期基本計画において「地域を創る」「ひとを創る」「まちの価値を創る」の３つの重点プロジェクトを核とした様々な取組を進めています。今後はさらにアフターコロナの新しい時代にマッチした持続可能なまちづくりを進めるため、戦略的に市政運営を進めていきたいと考えています。

私の今年のキーワードは「新化」です。「新化」とは、新しいものを生み出しながら、前に進んでいくことを意味します。とりわけ、今年４月に供用開始するLABVによるリーディングプロジェクトは、正に「新化」を象徴する取組です。学生寮に暮らす山口東京理科大学の学生を中心に、たくさんの交流が生まれ、そこを拠点にまちの賑いが拡がっていくことを期待します。また、切れ目ない子育て支援策の充実のほか、山口東京理科大学と連携・協創した取組を推進するなど「デジタル化の推進」「山口東京理科大学との連携」「スマイルエイジングの推進」の観点を年頭に置いた取組を展開いたします。加えて、各地域で進めていただいている「地域運営組織（RMO）」のスタートが期待されます。地域のみなさまが主体となって持続可能な地域社会を形成できるよう、行政として最善の努力をしてまいります。

本年も市民のみなさまのご支援とご協力をいただきながら「協創によるまちづくり」を進め、活力と笑顔あふれる「スマイルシティ山陽小野田」を創り上げてまいります。

2024年、令和６年が市民のみなさまにとりまして、希望に満ちた輝かしい１年となりますことをお祈りいたします。

山陽小野田市長　藤田 剛二